

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成25年度 NO.1

平成25年4月25日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

想像できない程の異常気象に見舞われ、野も山も街角もすべてが雪に覆いつくされた豪雪の今年の北国の冬。驚くほどあったその大雪も、春を感じさせる陽光が日増しに森に差し込んで、少しずつ雪解けが進んでいます。雪深い野幌の森にも、着実に“春の足音”が聞こえる頃になりました。

その深い雪の森に“早春の希望”のようなフキノトウやフクジュソウが雪を溶かして、もうすぐ春を連れて来ることでしょ。そして、やがて春を告げる花々がいつせいに咲き出す頃となりましょ。森の中の野鳥たちの“囀り（さえずり）”の声も、“恋の季節”の到来を予感させています。

今日は、野幌の森に春を告げる“花たち”と“野鳥たち”を紹介します。

野幌の森に春を告げる花たち

○ アキタブキ（秋田蓴） キク科 花の色：黄色 ※北海道と秋田県・岩手県まで分布
別名“大蓴”・“山蓴”とも呼ばれる。（名前の由来）フキの由来は諸説があるが、①フユキ(冬黄)の略。冬に黄色の花を咲かせるから。②旅先の用便のフキ（拭）ものに用いたからという説もある。

「アキタブキ」は、本州に分布する「フキ」よりも大型で、高さが2メートル、葉の直径が1.5メートル以上のものをいう。北海道内に生えるのはすべてこれを指す。足寄町の巨大なフキ「ラワンフキ」もこれである。

香り高く、ほろ苦い早春の味覚「フキノトウ」は、花のつぼみの集まった部分をさす。フキは雄花と雌花が別株の“雌雄異株”で、雄花は黄色の星形、雌花は白く糸状のブラシのような形をしている。地下茎と種子の両方で繁殖する。

○ エゾエンゴサク（蝦夷延胡索） ケシ科 花の色：青、他に紫・白・ピンクもある。

別名は“雨降り花”。この花を取ると次の日は雨になるよ、と小さいころ祖母に教わった。またの名を“蜜吸花”とも言う。よくこの花の甘い蜜を吸い、おやつ代わりにした思い出がある。

ケシ科では唯一食用になる植物。

（名前の由来）「蝦夷」は北海道で発見されたので。

「延胡索」は漢方薬で、鎮痛などに利用したから。

マルハナバチと共生関係。このハチが受粉を助ける。

開花はマルハナバチの冬眠から覚める時期を待って

咲く。アリが種子を散布してこの花を拡大させている。



○ エンレイソウ（延齢草） ユリ科

花の色は、あずき色から緑色まで。別名は“雨降牡丹”。花弁がなく、花弁に見えるのは3枚のがく片。（名前の由来）実生から開花まで10年以上もかかり、長寿の花なので、「延齢草」と名付けられた。根は腹痛止めなどの薬用になる。

開花し実ができると、あとは来年の春までひたすら寝て過ごす。種子はアリが散布する。

野幌森林公園にはエンレイソウの他に、白花のミヤマエンレイソウ（シロバナノエンレイソウ）、オオバナノエンレイソウの3種がある。ユリ科の植物は花弁が6枚であるが、エンレイソウ以外の種類はその名残の6枚を残している。白い色の花弁は3枚だが、緑色のところは花弁に進化せずに3枚のがく片として残ったものである。またエンレイソウ属の花は、3を基数にしている。葉は3枚、花弁とがく片も0～3枚、雄しべは3の倍数の6個である。

野幌の森に春を告げる野鳥たち

- ミソサザイ (鶺鴒) ミソサザイ科 北海道 (留鳥) ※沖縄を除く全国 (留鳥・漂鳥)

雪の残る春先の沢沿いの林の中で、よく響く声量のある大きな声でさえざっている鳥。ズズメより二周りも小柄な、日本で最小の鳥である。体重はわずか10グラム。

(名前の由来) 人を恐れず、人家のまわりの溝にも現われるので「みそ」、「さざい」は「小さい鳥」という意味からつけられた。雄と雌は全身茶褐色で区別はない。

“さえざり”は「ピピピツイツイ、チュリリリリ・・・、チヨチヨ」などと、体に似ずに大声で玉を転がすように早口で鳴く。短い尾をピンと上げた姿勢をよくとる。

鳥の世界では、一般的に配偶様式は“一夫一妻”だが、この鳥は“一夫多妻”で、雄がいくつもの巣をつくって雌に求愛する。

- カワラヒワ (河原鶺) アトリ科

北海道 (夏鳥)一部越冬。※本州から九州 (留鳥・漂鳥)。体の色は、雄の方が雌より緑色味で黄色が強い。

(名前の由来) 主に河原に多く、「ひわ」は「可憐で若々しい」と言う意味からつけられたという。

鳴き声は、普通は「キリリコロロ・・・、ビーン」など。

“さえざり”はこれに「チョンチョンチョン」や「ジュイー」とか「ビーン」を組み合わせた鳴き声。

この鳥には結婚のための独特の儀式があり、集団見合いを通じて雄同士が闘い、強いものが雌に求愛し、つがいとなって出ていく。そして集団はまた次の雄を決定するための闘いに入る。

夫婦は仲むつまじく、卵をあたためている雌に雄が餌を運んだりする。

- アオサギ (蒼鷺) サギ科 北海道 (夏鳥)一部越冬 ※本州・四国 (留鳥・漂鳥)、九州以南 (冬鳥)

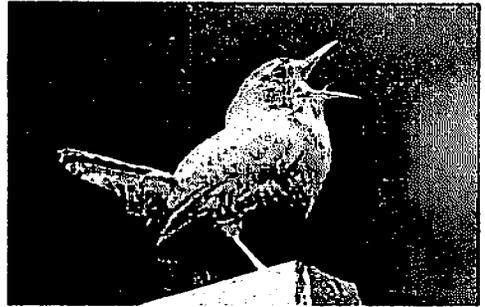
日本産のサギ類では最大の鳥。雄と雌は同じ色。繁殖期には足と嘴が赤みを帯びる。

(名前の由来) 「さぎ」は昔やかましく騒ぐことを「ささぎ」といい、それが「サギ」と呼ばれるようになったという。「アオサギ」は、背中が灰色がかった青色のサギだからそう命名された。

鳴き声は、「ゴアー」と低い濁った声で鳴く。警戒心が強く、人を近づけない野生的な鳥。

飛んでいる姿を見ると「ツル」にまちがえられるが、サギ類は首をS文字形にちぢめて飛ぶ。

この鳥は集団で繁殖しコロニーを作る。かつては野幌森林公園にも北海道を代表する大きな集団繁殖地のコロニーがあったが、外来移入種のアライグマに巣の卵や雛が襲われて、コロニーは札幌近郊に分散してしまい、今は野幌にはわずかに残るのみである。



☆ (野鳥観察のための「用語クイズ」) ☆

Q「留鳥」ってなに? (答え) 北海道に1年中すんでいて、季節的に移動しない鳥のこと。

Q「漂鳥」(ひょうちょう)ってなに? (答え) 一年中同じ地方にすむが、夏は山地や北日本に、冬は低地や南日本に移動する鳥のこと。

Q「夏鳥」ってなに? (答え) 繁殖するために北海道にやってくる渡り鳥のこと。春に渡って来て夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬する鳥のこと。

Q「冬鳥」ってなに? (答え) 越冬するために北海道にやってくる渡り鳥のこと。秋に渡って来て冬を過ごし、春に北方へ渡って繁殖する鳥のこと。

★5月の観察会

☆「春のありがとう観察会」5月12日(日) 10:00~14:30 (集合:野幌ふれあい交流館)

☆「恵庭公園観察会」5月19日(日) 10:00~12:00 (集合:恵庭公園駐車場)

☆「三角山登山観察会」5月26日(日) 10:00~14:00 (集合:山の手(緑化会)登山口)